

# 下野市立国分寺中学校

## 1 学校課題

研究主題 「主体的に学ぶ生徒の育成」～自ら課題を見出し、探究心を育む指導の工夫～

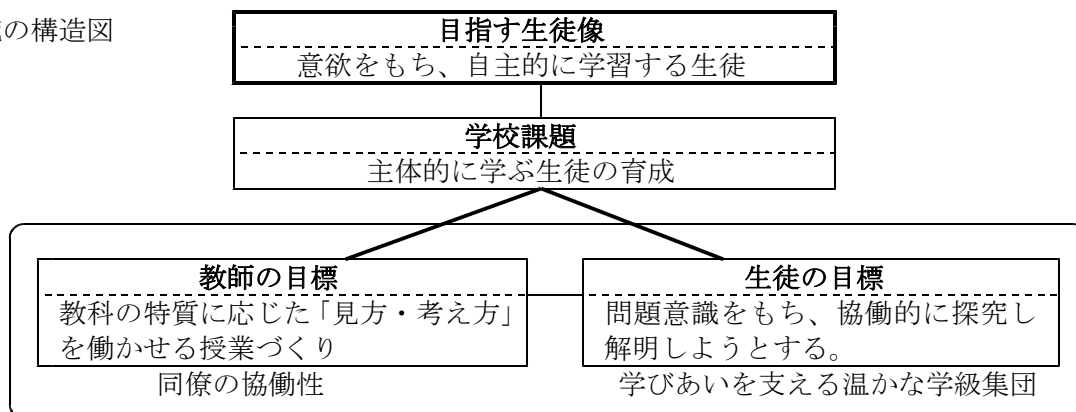
## 2 研究計画

### (1) 研究主題設定の理由

「主体的な学び」について、中央教育審議会答申(平成28年12月)では、授業改善の視点の一つとして次のように示されている。「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。」

本校では継続して「学びの共同体」の理念に基づいた授業実践を重ねており、ペア学習やグループ活動を取り入れている。しかし、お互いの意見を言うだけの会話、答えを教え合う、見せ合う活動になってしまっている現状がある。そこで、対話を通して新たな課題や問いを見出し、そこから更に主体的に学びを深めようとする生徒の探究心の育成を目指すために、教員の課題の設定や問いの質を向上させる必要があるのではないかと考えた。今年度は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、興味や関心をもって主体的に学べるような課題設定、単元、題材の学習過程、発問などを見直し改善していくような授業づくりを協働的に行い、主体的に学ぶ生徒の育成をねらいとして研究主題を設定した。

### (2) 研究の構造図



### (3) 研究のねらい

- ・ 生徒一人一人の「問い」をもとにした課題設定、単元、題材の学習過程、発問の工夫
- ・ 多様な他者との学び合いを大切にした対話場面の設定
- ・ 深い学びの成立のための振り返り

## 3 研究内容

### (1) 主体的な学びを中心とする授業の改善

年度当初、研究主題についての共通理解と学習観の共有を行った。今年度は「主体的に学ぶ生徒の育成」を目指して「自ら課題を見出し、探究心を育む指導」に焦点を当てることにした。年間を通して教科部会の充実を図り、様々な工夫を共有した。特に夏休みの部会では、全国学力・学習状況調査等の問題、結果の分析をするとともに、学力向上改善プラン具体策の実施に向けて、① 授業の導入における「課題設定」と「見通し」を意識するための実践例 ② 教科の特質に応じた「見方・考え方」の確認とそれらを働かせた探求的会話、振り返り ③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 について協議した。また、2回の授業アンケートを実施した。生徒が評価した結果を数値化することで、自分の授業を生徒がどう感じ取っているか考察し、授業改善につなげた。生徒の学びを支えることを意識した授業づくりの必要性があることを再認識した。

## (2) 授業研究会の充実

今年度は、4回の校内研修を行った。第1回S&Uコラボ事業を5月に「道徳」で実施し、本校で行われた下野市道徳教育研修会へとつなげた。「『考え、議論する道徳』とは」「その実現に向けた授業改善の具体的な取組」を研修のねらいとし、生徒の立場で和井内先生の授業を受けることで研究主題に迫った。第3回目の講師田村先生からは、「自主性・関係性・有能性に下支えされ自己決定したくなる教室・授業で、生徒は『思考・判断』し、そのことを『表現』し合いたくなる。そのために必要な『知識及び技能』を身に付けようとする。」とご提示いただいた。さらに、自主公開研では、昨年度に引き続き「学びの共同体」の授業スタイルを中心になって推進している佐藤先生にお越しいただいた。本校の現状から改善ポイントを交えての講話をいただき、「学びの専門家」である教師として改めて授業づくりについて考えた。

### 授業研究会研修内容

月	実施内容 および 授業研究会（授業、協議、講話）を通して
4	学習指導における共通理解
5	第1回校内研修 S&Uコラボ事業【道徳科研修会（教職員対象模擬授業）】 ・身近な質問を利用したウォームアップからのスタートで、話をしやすい雰囲気になった。 ・「自分が発表する順番がある」「考えたことを伝える人がそばにいる」「自分が考えを受け止めるべき人がある」という状況があると、考えようとする熱量が変わり、自分からも他の人からも多くの意見が出て活発な話し合いになると分かった。 ・教師の言葉の少なさ、お互いの意見が分かりやすい板書、キーワードが出てきた時の掘り下げ方、生徒から出た言葉の中からの振り返りなど、参考になった。
5	第2回校内研修 下野市道徳教育研修会【授業研究会】 2年道徳「見慣れた一里塚」
10	第3回校内研修 S&Uコラボ事業【授業研究会】 3年国語 ・ねらい、発問内容の重要性を再認識できた。発問の仕方次第で生徒の様子は大きく変わる。 ・単元構想などについて、具体的に知ることができた。ゴールを見据えて教材研究をしたい。 ・必要だから、楽しいから学ぶようになるように心掛けていきたい。
12	第4回校内研修 自主公開研究会 1年理科 講話 探究と協同の学びをどう創造するか 「ポストコロナ時代の学校改革と学びのイノベーション」 ・授業をコーディネートするための知識、スキルは学級経営と通ずるなど改めて思った。教師のための授業ではなく、生徒のための授業だなと感じた。 ・これからの時代を担っていく子どもたちをどう教育していくかという根本的なことを改めて考えさせられた講話だった。現在の環境や能力を踏まえた上で、効果的な授業や指導を行っていく。その一つとしてグループ活動をあらゆる場面で効果的に活用していきたい。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

年間を通して、「主体的に学ぶ生徒」を育成することを意識し、様々な実践ができた。

今年度は、特に「自ら課題を見出し」という視点を大切にしてきた。課題との出会わせ方など教師の支援のあり方により、生徒一人一人の考えることへの意識が高まり、対話を通して価値を広げることにつながると、どの研修やアンケートにおいても先生方の意見として出された。各研修は、自身の授業の課題や対話場面の設定を定期的に振り返る機会となり、その後の授業で実践し、さらに改善を続ける姿が多く先生方から見られた。

### (2) 研究の課題

課題設定の工夫や問いの質の向上は図れたものの、生徒の探究心の育成を目指すためには、さらなる研修が必要であると考えている。「探究心を育む」という視点から、「聴き合う関係」をより大切にして質の高い学びへとなるよう追究していきたい。また、協同の関係、探究の共同体となるジャンプの学びをどうデザインするか、専門家として各教科でさらに研究していきたい。

日々の授業にも制限が続く中ではあるが、来年度は、早い時期から一人一授業を公開し、グループを組んでの授業研究会や日常の教科部会を充実させたい。そこでは、学びの成立、躓きと可能性について子どもの「学びの事実」を語り合い、教師一人一人も学び続けられるようにしたい。また、今年度の実践から得られた新たな情報を職員全体で共有し、一貫した指導のために本校として目指す方向をはっきりとさせ、新年度をスタートできるように準備していきたい。